

第 1 回中心市街地活性化協議会・幹事会における意見（報告）

第 1 回中心市街地活性化協議会・幹事会において、「新富山市中心市街地活性化基本計画（案）」に関する中心市街地活性化の意義から具体的な事業にいたるまで幅広い意見をいただいた。主な意見を答申に盛り込むため、以下に整理する。

総括的事項

中心市街地活性化の意義について

- ・市民に中心市街地活性化の意義を理解してもらうことは重要である。そのためには、現在課題となっていることも含めて市民の理解を得ていくことが必要である。
- ・また、中心市街地に人を集めると言うのではなく、中心市街地は人との出会いの場を提供しているという姿勢でまちづくりを考えることが重要である。

中心市街地活性化の進め方について（市民を巻き込む努力）

- ・市民が中心市街地に対して横を向いては駄目であり、市民を中心市街地活性化の取組みに巻き込む PR が必要である。自分達の街を自分達で愛することが必要である。
- ・法の施行によって国が何でもしてくれるわけではない。他で成功したものを取り入れるのではなく、独自のことに取り組まねばならない。

中心市街地活性化の進め方について（富山らしさ、売り）

- ・課題対応型の計画であっては、「富山らしさ」のある計画とはならない。良いものをより良くしていくことが重要だと思う。
- ・商店街のテナント誘致に東京へ行くと、富山は金沢に負けている。「コンパクトなまちづくり」による差別化などを図り、全国あるいはメジャーな企業から注目されるためのプレゼンテーションが重要である。

中心市街地活性化に向けた行政（市）の役割について

- ・中心市街地の活性化に対しては、商工会議所、まちづくりとやま、その他民間でも様々な活動がされている。市はそうした民間の取組みを支援していくという姿勢を、基本計画に欲しい。
- ・住みやすいまちをつくることは、民間が勝手にやっているだけでは実現できない。行政がどのようにまちを良くしていきたいのか示し、スピードを上げて賑わいづくりに取り組む必要がある。

認定後の取組について

- ・今は 8 年間の計画のスタート地点である。国の認定を受けて、各団体がどういう行動をとっていきべきであるかという部分が見えていない。今後、各団体が力を出し合い、協働して活性化に向けた努力をしていくための会合の持ち方が重要である。

個別的事項

街なか居住の推進について

- ・まちなか居住、公共交通の整備に取り組んでいることをオリジナリティとして打ち出し、夜間人口増を背景とした活性化を目指していくべきだと思う。まちなかに住んで快適だと思うには、毎日の食材を買う場所の充実が必要である。願わくば、都心居住推進の取組とともに、快適な居住環境の整備にも取り組んだほうが良い。
- ・私は 2 年前からまちなか居住をしているが、ある意味では非常に便利である。まちなかの良さを集約し、広報することで、住みたいと思う人が増えるのではないかと。また、人が増えれば生鮮 3 品の再出店もあると思う。
- ・歩いていくことができる範囲に医療施設、コンビニエンスストアがあれば、生活に困らず楽しめる。中心市街地へ移りたいと思える環境をつくること、そのためには我々市民がまちを大切にしていかなければならない。
- ・中心市街地には病院がない。病院は人を集める施設であり、もう一度まちなかに病院を立地させることを考えてはどうか。再開発ビルに診療所を入れていくことも含めて検討してみたい。
- ・大学については、社会人のための講座をまちなかで行うことを検討してはどうか。団塊の世代の中には、レベルの高い勉強をしてみたいという人も多いことから、期間限定の単発の講座ではなく、社会人入学の学校として大学をまちなかに呼ぶことを検討したら良い。

賑わい拠点の創出について

- ・中心市街地において見所は増えてきた。このため、まち歩きのイベントを企画してもよいと考えている。城址公園は整備に 10 年かかるが、将来的には観光の売りになる。その時に観光客をきちんと迎え入れるためには、今から公園の計画を市民に知らせ、ボランティアや商店街で何か取り組んでいくことも必要だと思う。
- ・駐車場について、中心市街地で購買すると 2 時間無料というような仕組みであるが、購買しなくても 1 時間は無料というほうが利用者に対してインパクトがあると思う。費用負担の問題を含めて検討したら良い。
- ・富山市には富山大学があり、学生をはじめとして約 9,000 人が集まっている。さらに家族も含めれば相当な規模である。中心市街地活性化の取組に大学を組込む方策を検討してはどうか。

公共交通の利便性の向上について

- ・富山市は車社会とは言っても鉄道が残っていることが魅力である。ライトレールが脚光を浴びていることを活かし、公共交通の整備に一生懸命取り組むべきである。
- ・中心市街地という区域にこだわっているのは、公共交通は成立しない。中心市街地の外とどのように接点を設けていくかが必要である。特に、バスのネットワークをどうするか、バスでどのように中心市街地に人を呼び込むか考えてはどうか。
- ・65 歳以上の高齢者を対象としているおでかけバスも良いが、65 歳未満の主婦層も中心市街地に呼び込むべき対象とすべき。例えば大沢野の主婦で車の運転が苦手、バスもお金がかかるということで中心市街地に来ていないこともある。バスの運賃を一律にして、来街しやすくなるよう検討してみたい。